

大学等名	鈴鹿医療科学大学	申請レベル	リテラシーレベル
教育プログラム名	鈴鹿医療科学大学データサイエンス（リテラシー）教育プログラム	申請年度	令和 6 年度

取組概要



データサイエンス（リテラシー）教育プログラム

【ディプロマポリシー】保健・医療・福祉専門領域の最先端の進歩の状況を把握し、数理・データサイエンスを活用できる。

【プログラムの履修者】全学部・全学科の1年生全員(全学必修科目)

【プログラムの学修成果】

1. データサイエンス・AIを日常の生活・仕事等の場で使いこなすための基礎的素養を身につけ、統計データを活用する方法を体験する。
2. 表計算ソフト（Excel）を使用して、実データを統計分析し、グラフなどの可視化技術によりデータの意味を理解する。

【プログラムの修了要件】全学必修科目「医療人底力実践Ⅲ（データサイエンス）」を修得すること

【教育内容】以下のリテラシーレベルモデルカリキュラムを実施

導入（4回の授業） 1. 社会におけるデータ・AI利活用	1-1. 社会で起きている変化、1-2. 社会で活用されているデータ、1-3. データ・AIの活用領域、1-4. データ・AI利活用のための技術、1-5. データ・AI利活用の現場、1-6. データ・AI利活用の最新動向
基礎(3回の授業) 2. データリテラシー	2-1. データを読む、2-2. データを説明する、2-3. データを扱う
心得(1回の授業) 3. データ・AI利活用における留意事項	3-1. データ・AIを扱う上での留意事項、3-2. データを守る上での留意事項
選択(他の授業科目) 4. オプション ☆プログラムの修了要件にはしていない	4-1. 統計および数理基礎、4-2. アルゴリズム基礎、4-3. データ構造とプログラミング基礎、4-4. 時系列データ解析などは、他の多数の授業で実施

【授業の履修方法】本学のeラーニングシステム

(learningBOX)の授業フォルダで管理しているオンデマンドの授業（1単位）で、各授業回で6本のYouTube動画（8回×6本=48本）を視聴して学習し、各授業回の理解度テスト（小テスト）に回答し、レポートを提出する。

eラーニングシステムでオンデマンドで学習し、個別学習により、習得率を向上させる。

オリジナル短時間
動画（48本）

内容理解度テスト（8回）
Excel演習レポート（3回）

情報リテラシー（1年全学必修科目、前期1単位） ワープロ、表計算、電子メール、Web検索、インターネット、プレゼンソフトなどをコンピュータ演習を含め学習



1年全学必修科目

医療人底力実践Ⅲ（データサイエンス）
(秋期1単位) データサイエンスの基礎を学習

医療人底力実践Ⅳ（発展プログラム）
(後期1単位) グループワークにて知識を定着

大学等名	鈴鹿医療科学大学	申請レベル	リテラシーレベル
教育プログラム名	鈴鹿医療科学大学データサイエンス（リテラシー）教育プログラム	申請年度	令和 6 年度

その他補足資料



SUZUKA UNIVERSITY OF MEDICAL SCIENCE

鈴鹿医療科学大学

データサイエンス（リテラシー）教育プログラム

本学では、データサイエンス教育を基礎教育で全学部で必修とし、全学科混成でチームを組み、問題発見から解決に至る過程や方法をアクティブラーニングで学習しながら、データサイエンスの活用を身につけます。

1年次 学部学科を越えたチーム編成(医療人底力実践I・II・III・IV)

1年生を全員白子キャンパスに集め、学科の垣根を取り払った全学科混成のクラス編成とし、チューター(教職員)とともに、様々な体験学習(介護体験、普通救命講習等)、チーム活動(ディスカッション、プレゼンテーション、ディベート等)を協同で行うことにより、チーム医療に不可欠な協調性、考え抜く力、コミュニケーション能力を身につけます。2022年度からは、データサイエンスに関するオンデマンド授業とグループワークをさらに追加し、DX(デジタルトランスフォーメーション)に対応するための基礎的知識・教養を身につけ、データサイエンスの活用を学ぶことができるようになりました。

本学ならではの基礎教育で
チーム医療を学びます

- 放射線技術科学科
- 医療栄養学科 管理栄養学専攻
- 医療栄養学科 臨床検査学専攻
- リハビリテーション学科 理学療法専攻
- リハビリテーション学科 作業療法専攻
- 医療福祉学科 医療福祉学専攻
- 医療福祉学科 臨床心理学専攻
- 鍼灸サイエンス学科 鍼灸・スポーツトレーナー学専攻
- 鍼灸サイエンス学科 鍼灸学専攻
- 救急救命学科
- 臨床工学科
- 医療健康データサイエンス学科
- 薬学科
- 看護学科

全学科の1年生約700名が
1クラス約50名の14クラスに分かれます

(1クラスを教職員2・3名が担当)



1クラスがさらに8チームに
分かれて協同活動します

【チーム編成例】



3年次 事例で学ぶ多職種連携

医療・福祉現場における実際の実例課題に複数学科の学生と共に取り組み、問題解決策を提案し発表する等、多職種連携(チーム医療)の意識や必要性、連携方法等の技術を学びます。

4年次 実践で学ぶ多職種連携



Prof. Sankai University of Tsukuba / CYBERDYNE Inc. 装着型サイボーグHAL®

学内にある「鈴鹿ロボ
ケアセンター」で実習

引用：鈴鹿医療科学大学 大学案内 医療・福祉の総合大学「医療人底力教育」 p.3